YOCコラム

Young Ophthalmologists Committee Hot Topics !

Instagram

2024年度若手医師国内交流プログラム

日本眼科学会戦略企画会議第二委員会
Young Ophthalmologists Committee

第7回のYoung Ophthalmologists Committee（YOC）コラムは，2024年度の第1回若手医師国内交流プログラムの報告です．本企画は，国内の若手医師が他施設の短期間の見学を行うことで，若手医師同士の交流を促進し，組織の垣根を越えた意見交換を行うことで，イノベーションが生まれやすい土壌を作ることを目的として我々YOCが企画しました．試験運用として2023年秋にYOCメンバー4名が実際に希望施設の見学を行い，第3・4回のYOCコラムでその内容を紹介させていただきました．その経験を踏まえ，2024年度に実施した第1回国内交流プログラムの詳細について紹介させていただきます．

募集要項および選出結果について

対象者を日本眼科学会に所属する40歳以下の若手眼科医師，期間を3日～1週間の短期見学とし，日本眼科学会より見学にあたっての交通費・宿泊費などの補助金を援助する形で，希望者を募集しました．2024年11月末を応募期限とし，全国より計23名の応募がありました．各応募者からの申請書を元に，年齢，性別，専門領域，所属施設の地域などのバランスなどの観点から，YOCメンバー全員による十分な協議のうえで，採択者10名を決定しました．

結果は，年齢が20代後半～30代後半の眼科専門医取得前後の若手医師で，男性7名女性3名，専門領域は網膜・硝子体が応募者・採択者いずれも最多であり，その他にも角膜・ぶどう膜炎・小児眼科・眼腫瘍などバランスを考えて選出しました（表1）．受け入れ施設は計8施設で，応募の多かった2施設は2名ずつの受け入れを依頼しました．都市部と地方部のバランスを考慮し，大学病院5施設と眼科の専門性の高い3施設を選出しました．

実際の見学は，採択者と受け入れ施設の間で調整いただき，2025年3月末までの間に実施しました．各採択者からプログラム終了後に報告書を提出いただき，うち5名に2025年10月の第79回日本臨床眼科学会のYOCシンポジウム内で報告をしていただきました．以下に報告書からの抜粋という形で，プログラムを経験した採択者からの意見を紹介させていただきます．

利根川直也先生（慶應義塾大学）

見学施設/分野：神戸アイセンター/網膜再生医療，網膜変性，ロービジョン

成果：研究機器や最新の画像検査機器など充実した設備や，研究治療開発に向けて整えられたフローについて，実際に見学をさせていただけたことに加え，アイセンターという世界でも類を見ないエコシステムの中で，さまざまな大学から多様なバックグラウンドを持った先生方が一堂に会し，網膜変性疾患をはじめとした患者さんに対してより良い医療が提供できないかとビジョンを共有し，研究・臨床・福祉問わず取り組まれている姿は，非常に感銘を受けました．そのより良い医療の提供を目指す中で，既存のシステムやルールを時には変えていかなければならず，「世界初をするということ」に関しても滞在期間中に常に考えさせられました．また，自身に近い立場として，大学院生として研究に従事する先生方と情報交換の機会をいただき，親交を持てたことも非常に貴重な成果となりました（写真1）．

青木修一郎先生（東京大学）

見学施設/分野：神戸アイセンター/ロービジョン，網膜変性，移植医療

成果：遺伝性網膜変性疾患の遺伝子検査やエキスパートパネルによる評価プロセスについて，実例を踏まえて現状がよく理解でき，網膜変性疾患診療，ロービジョン外来について理解が深まり，見学した経験が診療に役立っています．ロービジョンパークが視覚障害者の社会参画を促す場として機能していることを拝聴し，視覚障害への認識がさらに良い意味で変わりました．施設の先生方とネットワークを構築でき，今後研究面で協力していく予定です．革新的医療をどのように提供するかという問いへの答えの一つとして，研究・製

表 1　2024 年度若手医師国内交流プログラム参加者.

氏名	所属施設	希望施設	期間	分野
利根川 直也	慶應義塾大学	神戸アイセンター	5 日	網膜再生医療，ロービジョン
青木 修一郎	東京大学	神戸アイセンター	4 日	網膜再生医療，ロービジョン
瀧澤 廣輝	東北大学	琉球大学	3 日	黄斑疾患
鈴木 真聖	浜松医科大学	神戸大学	3 日	ぶどう膜炎
駒井 清太郎	京都府立医科大学	東京歯科大学市川総合病院	5 日	角膜移植手術，アイバンク
田中 一史	東邦大学医療センター佐倉病院	国立成育医療研究センター	4 日	小児眼科
眞榮平 茉莉奈	琉球大学	国立成育医療研究センター	5 日	小児眼科
川村 愛	京都大学	東京医療センター	3 日	遺伝性網膜ジストロフィ研究
坂本 達也	広島大学	東京医科大学	3 日	眼腫瘍，ぶどう膜炎
曽谷 育之	神戸大学	北海道大学	4 日	網膜硝子体，ぶどう膜炎

写真 1　利根川直也先生（慶應義塾大学）による神戸アイセンター見学の様子.

造・診療まで一施設に集約され機能していることがよく理解できました．未来の医療のあり方を考える契機になりました．また，その移植医療の恩恵を受けられない方々にもロービジョンという受け皿を用意していることに病院としての素晴らしい理念を感じました．

瀧澤廣輝先生（東北大学）

見学施設/分野：琉球大学/黄斑疾患

成果：臨床研究を進めるうえで，検査プロトコルの設定，研究チームの構築，研究デザインのコツなど，実践的な形でさまざまなことを学ぶことができました．最終目標を見据え準備していくことの重要性，そして研究が頓挫しない工夫もまた重要であると改めて学びました．多くの外来スタッフともお話しする機会があり，対面でなければ得られない情報も多くありました．何より，まとまった期間滞在したことで，同世代も含め多くの先生と面識を得ることができました．日本の各地に多忙な業務の合間を縫って研究に励んでいる先生方がいることを改めて感じ，大変励みになりました．自施設との違いを知ることで，自らの研究環境を振り返るきっかけにもなりました．

鈴木真聖先生（浜松医科大学）

見学施設/分野：神戸大学/ぶどう膜炎

成果：ぶどう膜炎についての診療内容や手術について勉強になったことはもちろん，他施設とのつながりや，同年代の医師との交流など，見学が数日あったからこそ得られた経験だと感じます．同年代の医師が研究や診療に打ち込んでいるところを間近でみることができ，刺激になりました．

駒井清太郎先生（京都府立医科大学）

見学施設/分野：東京歯科大学市川総合病院/角膜診療，角膜移植手術，アイバンク

成果：自施設とのシステムの違いは非常に新鮮であり，角膜移植をとりまく環境について改めて考える大変良いきっかけになりました．先生方との議論を通じて，こだわりを持って臨床にのぞむことの重要性を再認識し，研究に対する新たなアイデアの創出への刺激になったことは，角膜診療ビギナーの自分にとって，

写真 2　田中一史先生（東邦大学医療センター佐倉病院）による国立成育医療研究センター見学の様子.

これからのキャリア形成を考えるうえで重要な経験となりました．また，角膜専門医として同じ志を持つ若手の先生方の活躍には大変な刺激を受け，今後さらにネットワークを広げてお互いに高め合うことができるきっかけになったと感じています．

田中一史先生（東邦大学医療センター佐倉病院）

見学施設/分野：国立成育医療研究センター/小児眼科

成果：小児眼科疾患に特有の病態や治療法について，より深い知見を得られたことは大きな収穫でした．具体的には，患児の将来を考慮した教育選択や保護者への十分なインフォームド・コンセントの重要性を実感する機会となりました．また，コミュニケーションが困難な小児患者への診察では，短時間のうちに必要な情報を効率的に得るための工夫や問診・診察の要点を把握することができました．さらに，全国から多様な小児疾患が集まる施設ならではの豊富な疾患データや，それを基にした臨床研究の存在を知り，学術的視点の重要性を再認識しました．これらの経験を踏まえ，未熟児に対する自施設での研究の可能性を考えるきっかけにもなりました（写真 2）．

眞榮平茉莉奈先生（琉球大学）

見学施設/分野：国立成育医療研究センター/小児眼科

成果：小児眼科の専門機関で幅広い症例を学ばせていただきました．自施設にも定期的に難疾患や希少疾患の小児眼科症例が受診しますが，数も少なく診断に苦慮することもあります．難症例が多く集まる施設で見学でき，系統的な診断・治療を学ばせていただきました．また，東京という日本の中枢での診療と，沖縄という海をまたいだ地域診療との違いも感じました．沖縄という離島県での診療に必要なこと，またそのために自分自身に何ができるだろうか，と考えさせられました．

川村　愛先生（京都大学）

見学施設/分野：東京医療センター/遺伝性網膜ジストロフィ研究

成果：遺伝性疾患患者の変異の病原性評価を実際に行う過程を教えていただき，今後の自身での病原性のより正確な評価に役立ちました．遺伝子疾患カウンセリングを見学し，検査によって得られた情報をどのように患者さんに伝え，今後の生活に活かしていくかを学習しました．遺伝子疾患は眼科領域にとどまらず多臓器にも影響する疾患であり，他科の医師とも関わりを持ちながら診断やカウンセリングを進めていくことを知りました．今回自身の大学から出て他施設へ見学をさせていただき，全く異なる環境でどのような研究や診療が行われているかを学ぶことができ，とても勉強になりました．学会などで研究内容などを共有いただく機会はありますが，実際に他施設の中に入らせていただいて見学をする機会はなかなか得られないので，貴重な経験となりました．

坂本達也先生（広島大学）

見学施設/分野：東京医科大学/眼腫瘍・ぶどう膜外来，眼瞼腫瘍手術

成果：特に，眼腫瘍およびぶどう膜炎に関しては，他大学病院やがんセンターから紹介されるポジションの大学病院であり，非常に診断や治療に難渋する症例を見ることができました．専門外来では，原因がわからない・診断がつかないといった悩ましい症例に対し，紹介元の医師達からの信頼とそれに応えようとする姿勢に医師としての矜持を感じました．

曽谷育之先生（神戸大学）

見学施設/分野：北海道大学/網膜硝子体（手術・AI・研究），ぶどう膜炎

成果：地域や環境による診療方針の違いなど，自施設との違いを感じることができ，実際の診療に活かせる部分が多くありました．診療にあたられている先生方が，治療以外の患者背景にも寄り添った方針を立て，大学病院としての機能を保つために努力されており，見習うべきだと感じました．また，研究については，今後の自身の研究内容にも大きく影響するような内容のお話を聞くことができ，非常に有意義な時間となりました．

表 2　2025 年度若手医師国内交流プログラム参加者.

氏名	所属施設	希望施設	分野
一戸 寛	弘前大学	神戸アイセンター	遺伝性網膜疾患
布瀬 萌	東邦大学医療センター佐倉病院	新潟大学	網膜硝子体・緑内障
山口 智暁	東北大学	東京大学	臨床・基礎・AI 研究
福島 正樹	近畿大学	杏林大学	網膜硝子体
荻堂 祐司	琉球大学	近畿大学	小児眼科・網膜硝子体
冨岡 瑞樹	筑波大学	大阪ろうさい病院	網膜剝離手術
三原 直久	鹿児島大学	東邦大学医療センター佐倉病院	網膜硝子体
出家 寿々	広島大学	京都府立医科大学	角結膜診療
小野 喬	東京大学	京都府立医科大学	角膜手術・再生医療
青木 崇倫	京都府立医科大学	東京医科大学	ぶどう膜炎

第１回国内交流プログラムの課題および第２回（2025 年度）プログラムについて

第１回のプログラムは，希望者の募集，採択者の決定・通知を行ってから希望施設への実際の見学までが約３か月と短期間となり，見学期間が採択者の希望より短くなった，施設側の受け入れが同時期に重なった，などが問題点として挙がりました．こうした点を踏まえ，2025 年度の第２回プログラムは８月までに募集と選考を完了し，より長い期間内で見学日程を調整できるようにしています．10 名の採択者が 2026 年３月末までに見学を完了し，うち５名が第 130 回日本眼科学会総会の YOC シンポジウムで報告を行います（表 2）．また将来的に，受け入れの多い施設の表彰や，プログラム経験者による自施設への還元を検討することで，各施設単位でメリットを得られる形も考えています．まだ試行錯誤中の企画ですが，2026 年以降も募集を行う予定ですので，特に研究や臨床に興味があり，施設間の垣根を越えた交流をしたいという若手の先生方は，奮って応募いただければと思います．

（文責：髙橋洋平）